

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・行動制限がないことから、ほぼ通常の状態に戻りつつある。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援が始まったこともあり、ここ3か月、景気が徐々に上向いている。旅客数、来客数、客単価の動きが良くなっており、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻っている。ただ、12月は効果が一巡したためなのか、2か月前や3か月前と比べると、伸び率が若干落ちている。
	○	百貨店（売場主任）	単価の動き	・外国人による購買が増えており、その分だけ売上が増加している。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は増加傾向にあるが、行動制限がないことから人出が確実に増加している。
	○	百貨店（営業販売担当）	単価の動き	・8月に始まった閉店セールの効果で衣料品、雑貨が引き続き好調に推移している。食品以外の部門が好調なことから、客単価は大きく上昇している。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・11月は気温が高く、降雪が少なかったことから、アウターや防寒系の肌着などの衣料品が苦戦したが、その需要が12月に回ってきており、好調な売れ行きとなっている。ただ、重寝具は12月に入っても動きが悪く、家の中で使う物については生活防衛意識の高さがうかがえる。
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・価格高騰に伴う買い控えの影響で買上点数は伸び悩んでいるが、これまで減少傾向にあった来客数が増加している。トータルの売上も増加傾向になりつつある。
	○	スーパー（役員）	販売量の動き	・地域のプレミアム付商品券が発売されたことで、消費が一気に活気付いた。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・光熱費の高騰が続いているものの、冬物衣料の販売量が想定以上であり、景気がやや良い状況にある。リゾート地域の店舗では、海外からの客も増えていて、円安の恩恵も出ている。ただ、クリスマスギフトの需要をみると、比較的安価な商材を買う客もいることから、物価高騰の影響もみられる。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車効果により来客数、販売量が増加している。
	○	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・来客数を前年比でみると、これまで減少傾向にあったものが増加傾向に転じている。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・コロナ禍における医療業界のバブルは去り、良質さと堅実さを求める客だけが残っている状況にある。今後はより誠実な接客対応が求められることになる。
	○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・全国旅行支援が客室の稼働を押し上げている。12月28日から1月9日にかけての期間は稼働が大きく落ちているが、外国人観光客の予約が前月よりも増えていることもあって、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に近づいている。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・全国旅行支援などの施策の効果もあって、景気が徐々に回復している。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症に人々が慣れたことから、12月の人出が元に戻りつつある。
	○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・インバウンドの団体客が明らかに増えており、新型コロナウイルス感染症発生前のような冬の観光シーズンのにぎわいが戻りつつある。インバウンドによる個人利用もかなり目立っている。インバウンドの利用者が増えた分だけ売上が増えており、3か月前と比べると大幅に伸びている。
	○	美容室（経営者）	販売量の動き	・12月の売上は前年を5%弱上回っており、ここ3か月で一番良いものとなっている。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・報道などでは景気が良い方向にあるという声も聞こえてくるが、客の反応は決して良いものではない。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の購入の仕方が最低限なものとなっている。

□	商店街（代表者）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・11月は新型コロナウイルスの新規感染者数が増加したことで、来客数が大幅に減少しており、全業種がマイナスに転じた。12月も若干の影響はみられるものの、徐々に回復傾向に転じつつある。ただ、新型コロナウイルス感染症発生以前と比較すると、客の行動に大きな変化がみられている。特にクリスマスは自宅で過ごす傾向が顕著であり、デパートなどの食料品売場は活況だが、飲食店は軒並み苦戦している。巣籠りの習慣が根付いていることで消費の衰退を招いており、これを払拭するのは容易ではない。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は前年比で150%、前々年比で368%となっており、新型コロナウイルス感染症発生前と比べても98%まで回復している。インバウンドによる売上も、中国本土以外のアジア客を中心に以前の30%程度まで回復している。ただ、12月後半は大雪の影響で道外からの観光客が減少しており、少し寂しい状況であった。
□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ薄れているが、いまだ元の状況には戻っていない。
□	一般小売店（経営者）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・来客数は増加傾向にあるが、客単価が低下している。
□	スーパー（店長）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響については若干の改善傾向がみられるものの、ウクライナ情勢やエネルギー価格高騰による影響が非常に大きく、全体的には悪いまま横ばいでの推移となっている。
□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高により、客単価が上昇していることの影響がみられる。一方、マーケット内に競合が新規出店したものの、来客数の前年比は3か月前よりも上回っている。前年の同時期は新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したことで内食需要が減少した時期であり、その反動が出ていることが要因の1つとみられる。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・売上は前年をやや上回っているが、商品単価が上昇していることを考えると売上が増えていなければならない。来客数も増加していない。
□	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症、日用品や光熱費などの値上がり、長期金利の変動幅の見直しなどによる影響で必要最小限の消費になっている。客との会話でもこれらの話題がよく聞かれる。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・石油製品価格が高止まりしていることで客の節約志向が強くなっている。
□	その他専門店〔造花〕（店長）	お客様の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期が終了した段階で前年を1割程度下回る売上となっている。今年の年末商戦は客が早い段階で動き出したことから、12月の動きは例年と比べて落ち着いていた。
□	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・12月の売上は例年の50%を超えており、予想に反してやや良かった。前月に新型コロナウイルスの新規感染者が急増したこともあって、一時的に客足が遠のいたが、夜の個人客が順調に来店した。ただ、忘年会などの団体客は低調であった。来客数が増えていることから、スタッフを増やしたいが、原材料の値上げなどの影響もあって利益が圧迫されており、当分補充は厳しい状況である。地方の状況を見ると、夜の繁華街は人出が少なく感じるが、人気の料理店は個人客の予約で貸切りとなるなど、少しずつ景気が上向いている様子が見えてくる。
□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季以降、航空便の国内線利用者は新型コロナウイルス感染症発生前の80%ないし85%の水準で推移しており、需要は回復傾向にあるものの、回復率は横ばいの状況が継続している。一方、国際線は11～12月にかけて、韓国、台湾、タイなどのアジア路線の運航再開がみられることから、ようやくインバウンド回復の緒に就いたとみられる。
□	旅行代理店（従業員）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ようやく新型コロナウイルス感染症の影響からの回復がみえてきたところに、各種値上げが相次いでいることから、再び景気が落ち込む状況となっている。

□	タクシー運転手	来客数の動き	・10月までは前年比プラスで推移していたが、11月及び12月は前年比マイナスとなった。タクシー1台当たりの売上は新型コロナウイルス感染症発生前と同じような水準に回復しているが、乗務員不足の影響が出ている。乗務員は新型コロナウイルス感染症発生前から30%以上減っており、会社の売上も新型コロナウイルス感染症発生前と比べると30%のマイナスとなっている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・ニュースなどではインバウンドが増加傾向にあるようだが、来客数に変わりはない。イベント関係の利用が多少みられたものの、旅行客の利用はこれまでと変わらなかった。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・ここに来て新型コロナウイルスの新規感染者数が増えていることから、タクシー利用にも影響が出ている。こうした状況が続くことで自治体が何らかの対策を行うことも懸念される。年末や年始にかけての動きを注視したい。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・12月前半は暇な日が続いたが、後半は忙しくなり、トータルではまずまずの売上となった。新型コロナウイルス感染症の影響は余り感じられない。
□	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の購入意欲に大きな変化はみられない。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・12月に入り、年末の大売出しが始まっているが、新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることもあり、来街者の目立った増加はみられない。ただ、来年1月末で閉店する区域内百貨店が閉店セールを行っているため、百貨店を訪れる客は増加している。全体としては景気は3か月前と比べてやや落ち込んでいる。
▲	百貨店（マネージャー）	単価の動き	・物価高の影響が継続している。客単価は3か月前の前年比96%に対して、12月は前年比91%となっており、5%低下している。また、買い控えがみられることで、買上客数は3か月前と比べて8%低下している。
▲	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・ここに来て観光客が減少しており、見込みほど活発な動きがみられなかった。また、新型コロナウイルス感染症の影響も少なからずみられる。今後、トレンドが上向くことを期待したい。
▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・西日本の暖冬、物価高騰、中国のコロナ禍の影響による生産トラブルなどのマイナス要因があり、景気はやや悪くなっている。
▲	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・例年よりも半月遅れで冬物が動き出したことで、12月の数字は改善している。ただ、通年売れるスーツを買い控える動きが続いており、全体としては苦しい状況となっている。
▲	家電量販店（店員）	来客数の動き	・12月の客足はやや鈍っていたが、後半になり来客数が戻っている。ただ、客が店内にいる時間は短い。電話での問合せも多くみられる。
▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・10月及び11月は販売台数が伸びていたものの、12月になり、販売台数が伸びていない店舗もみられるようになってきている。冬の販売が落ち込むという北海道特有の事情もあって、年末商戦は厳しい状況にある。ただ、当社の場合、決算期に向けて1月ないし3月が最盛期となることから、これから盛り返すことが期待できる。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・全国旅行支援については、予算規模や支援内容から大きな効果はないものとみられる。また、地域内での相互扶助にもそれほど寄与できていないことから、消費が縮小している。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・行動制限はないものの、新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしていることから、徐々に上向いていた来客数にも陰りがみられる。特に12月の忘年会を含めた宴会のキャンセルが顕著にみられ、先行き不透明な状態となっている。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・全国旅行支援の割引率が低下することを受けて、予約が鈍化している。物価高、長期金利の変動幅の見直しに伴う影響も出ている。

	▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月は第7波の出口に当たり、夏の自粛の反動で旅行需要の高まりがみられた月であった。一方、12月は全国旅行支援が年末年始で途切れることもあって、旅行需要が低下している。
	▲	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売量確保のため、ローコストの通信会社との契約にも依存しなければならない状況となっている。そのため、販売量は確保できているものの、全体の収入が落ち込んでいる。
	▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・値上げが相次いでいることから、客の使う金額が減ってきている。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・悪天候に伴う海上のしけで欠航を余儀なくされており、輸送量が落ち込んでいる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・物価高、資材高の影響で住宅価格が上がったままであり、住宅を建てる人が減っている。また、住宅以外の物件についても計画の見直しや延期が増えている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・総合展示場の来客数が一段と減少している。
	×	スーパー（従業員）	それ以外	・最低賃金の引上げに伴う人件費増、電気料金や燃料費の負担増など、経費の増加が顕著にみられる。仕入価格の上昇分は販売価格に転嫁しやすいが、経費の増加分は転嫁することが難しく、利益が大きく減少している。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者が増えていることが影響している。居酒屋では景気の良い店もみられるが、当店のようスナックは客足が少なくなっている。取りあえず営業は続けているが、これから景気が良くなるとは余り思えない。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・忘年会シーズン直前に新型コロナウイルス感染症の第8波が到来したことで、大人数の宴会を自粛して、少人数の忘年会に切り替える動きがみられ、12月の夜間の人出が減少した。売上は新型コロナウイルス感染症発生前の8割まで回復していたが、再び7割まで落ち込むことになった。
企業動向関連 (北海道)	◎	*	*	*
	○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上は増えているが、原材料の価格高騰が止まらない。また、原材料の供給遅延が長く続いていることで、残業や休日出勤などでの対応が増えており、人件費の負担も増している。
	○	建設業（役員）	受注量や販売量の動き	・冬本番を迎えたが、降雪による影響は例年ほどみられない。年内しゅん工の現場では計画を上回る利益が確保できる見込みであり、稼働中の現場も設計変更や追加工事による上積みが確実となっている。
	○	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・当社の業績は計画比で好調に推移している。周囲の企業も同様に計画を上回る業績となっている。
	○	金融業（従業員）	取引先の様子	・全国旅行支援や外国人観光客の入国制限緩和により、観光関連の業況が回復しており、道内景気を押し上げている。一方、それ以外の業種はコロナ禍や物価高の影響を受けており、業態、客層、地域、事業規模などによって業況がまだら模様である。総じてみると、道内景気は3か月前と比べてやや良くなっている。
	□	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・売上は3か月前と変わらないが、原材料やエネルギーなどの価格高騰が続いているため、利益の出ない構造にも変化がみられないままである。
	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・業務の発注量が相変わらず少ない。
	□	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・季節要因を除けば、受注量に大きな変化がみられない。
	□	司法書士	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症に関する制限が緩和されていることで、人の行き来は増えているが、諸物価が大きく上昇していることから、景気は依然として低迷している。

	□	司法書士	取引先の様子	・ 建築関係の取引先において、これまで徐々に回復してきた業績が冬期間に入り横ばいとなっている。資材の価格高騰や為替相場の変動、コロナ禍、ウクライナ情勢など、様々な要因があるが、なかでも季節要因が大きく影響している。
	□	その他サービス業【建設機械レンタル】（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 売上が前年から微増で推移している。
	▲	*	*	*
	×	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 新築戸建て住宅の着工棟数が前年比で24%程度落ち込んでいることから、受注量が大幅に減少している。土地や原材料の価格高騰、半導体不足による設備機器の供給不足などが要因であることから、回復する見通しも立たない。
雇用関連	◎	—	—	—
(北海道)	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・ 年末にもかかわらず駆け込みの求人が増えている。年末はボーナス支給後に退職者が増える傾向にあるが、新年までに人材の調達を終えておきたいという企業側の動きが強まっているとみられる。一方、求人ニーズが底堅いことから、こうした動きはアフターコロナを見据えた人材採用の動きにもみえる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 新型コロナウイルスの新規感染者の急増に伴って、介護施設でクラスターが多発したことで求人数が減少している。一方、国内観光客、中国以外の外国人観光客が増えていることで、宿泊や飲食、小売の求人数が増加している。全体としては景気はやや良くなっている。
	○	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・ 11月の新規求職者数は前年を5.6%下回り、6か月連続での減少となった。一方、新規求人数は前年を16.0%下回ったものの、前年の求人数が通常時を上回ったことの反動によるものとみられ、業況堅調な企業を中心に求人が引き続き堅調に推移している。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 当地における11月の有効求人倍率は1.02倍であり、3か月前との比較では0.07ポイント上回った。
	○	学校【大学】（就職担当）	求人数の動き	・ 2023年春卒業予定者の採用活動はほぼ終了している。飲食関連や清掃関連では予定の採用枠を満たせなかったようだが、それ以外の業種ではどの企業もおおむね最低限の新卒採用は確保できたようだ。業種によっては原材料などの価格高騰により、苦しい経営環境となっているところもみられるが、全体的には景気は回復している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・ 求人数は前年とほぼ同数であるが、応募者数の減少と採用決定率の低下がみられる。業種や職種による違いも大きくなりつつある。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 中心部において外国人観光客を見掛けるようになり、インバウンド需要への期待感も高まっているが、物価高や原油高などのマイナス要因もあり、景気回復の実感まではない。観光関連、飲食業、販売系などの求人数が大きく伸びている状況もみられない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ 掲載申込件数は新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻りつつある。ただ、円安や原材料の価格高騰、最低賃金引上げに伴う人件費増加などのマイナス要因もあり、更なる上昇機運に乗り切れていない。
	▲	職業安定所（職員）	それ以外	・ 円安に伴う企業収益の悪化、長引くウクライナ情勢、原材料の価格高騰に伴う様々な物の値上がり、物価上昇に追い付かない賃金上昇、新型コロナウイルス感染症の再拡大など、マイナス要因が多く、景気は3か月前よりもやや悪くなっている。
	×	*	*	*